

第1回 大麻町未来づくり会議資料

1. 議事

(1) 本会議の役割と目的

(2) 大麻町の特徴

(3) 大麻町の課題

(4) 大麻町の今後の動向

(5) 今後のスケジュール

(6) 意見交換

1. 本会議の役割と目的

(1) 役割

令和9年度には、コミュニティ機能を持った(仮称)大麻町総合防災センターが完成予定であり、さらには令和11年度には学区制が廃止されるなど、大麻町への「新たな人の流れ」などの環境の変化が予想されている。

また、既に旧鳴門エリアでは、鳴門駅や新庁舎周辺の中心市街地の活性化に向けて話し合う「鳴門市まちづくりデザイン会議」がスタートしている。

旧鳴門エリアとは異なる文化圏や生活圏のある大麻町エリアのまちづくりを併せて進めることは、相乗効果により、市全体の魅力向上に繋がるものであり、未来の「大麻町」の活性化に繋げることを目指し、「何が課題なのか」、そして「何をすべきなのか」、意見集約や実事業化に向けた検討を行う場として設置する。

【キーワード】

公共交通

賑わい創出

企業誘致

歴史・文化

観光振興

商業・農業

空き家活用

買い物支援

etc

⇒ 何が課題で、何に取り組むのか？ 行政と関係者が対話をしながら、課題解決やまちづくりに取り組む場
(今後の大麻町の未来に関して議論する場)

1. 本会議の役割と目的

(2) 目的

グランドデザインは、市民と行政が一体となってまちづくりを進めていくため、大麻地区の特徴を捉え、課題を整理した上で、「どんなまちにしたいのか」といった地域の将来像を描くとともに、**その実現に向けた方針と幅広い分野の具体的な取組を示すもの。**

本会議において、こうしたビジョンを作成し、まちづくりを進めていきたいと考えている。



(玉名市や真鶴町などの先進事例)

※別添参照

第5章 まちなかエリアの未来図

玉名駅エリア

エリアの未来図

通勤・通学者やまちなかを訪れる人みんなが自分時間を楽しむことができる、まちなかへの出発点となるエリア



●大谷焼、蔵見学、藍染体験などの、
「体験型コンテンツ」

●市の天然記念物であるゲンジボタルが生息する
「大谷川」を活用した地域振興

●地域コミュニティの維持・活性化の拠点となる
「堀江公民館」

●跨線橋から見るレンコン畑などの幻想的な風景
などが見える「池谷駅」

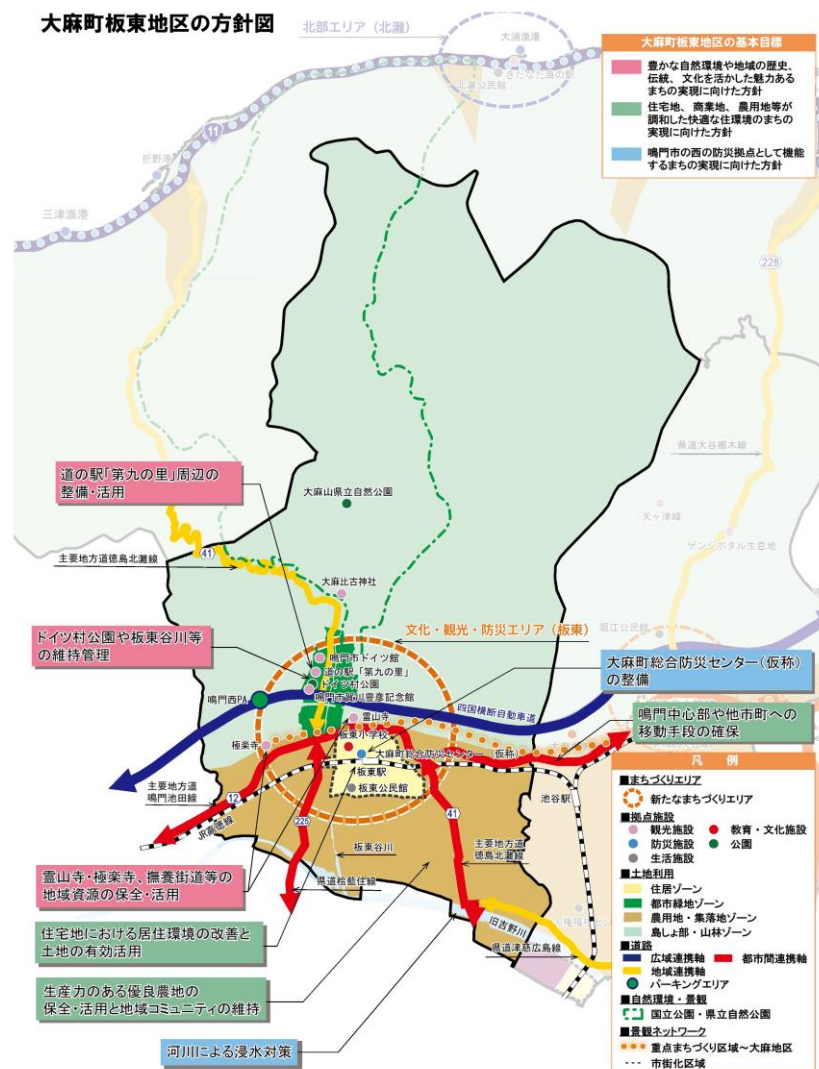
●レンコンや水稻など、比較的規模の大きい農地による農業振興



2. 大麻町の特徴

(2) 板東地区(2023年策定の鳴門市都市計画マスタープラン参考)

- 道の駅「第九の里」や鳴門市ドイツ館、鳴門市賀川豊彦記念館などの観光資源
- 四国八十八カ所の1番・2番札所である、靈山寺や極楽寺、大麻比古神社、ドイツ村公園などの歴史的な街並みや建築物、文化的資源
- レンコンや水稻など、比較的規模の大きい農地による農業振興
- 地域コミュニティの維持・活性化の拠点となる「板東公民館」
- 自然や環境コンテンツとなる国の特別天然記念物「コウノトリ」

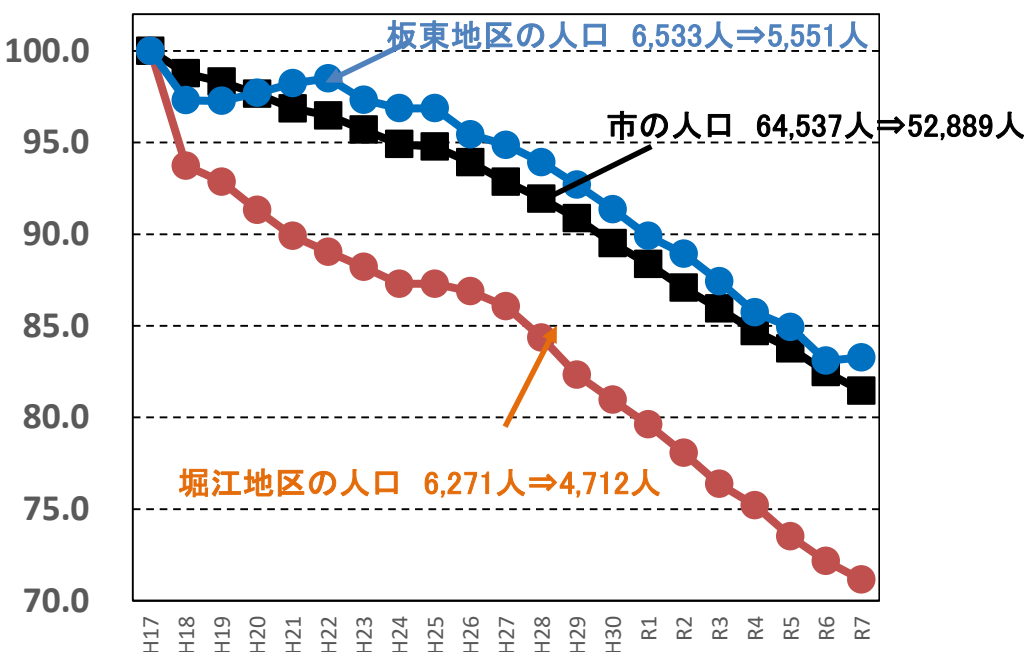


3. 大麻町の課題

(1) 人口の推移・減少

本市人口と大麻町人口の過去20年間の推移

平成17年を100とした場合



戦略企画課 小字別人口より

周辺自治体の過去20年間の推移

	H17.4.1 人口	R7.4.1人口	減少率 (%)
徳 島 市	265,746	243,648	-8.32
小 松 島 市	42,078	33,336	-20.78
阿 南 市	55,178	64,995	17.8
松 茂 町	14,830	13,885	-6.38
北 島 町	20,545	23,128	12.58
藍 住 町	32,064	35,069	9.38
板 野 町	14,527	12,420	-14.51
上 板 町	13,129	10,624	-19.08

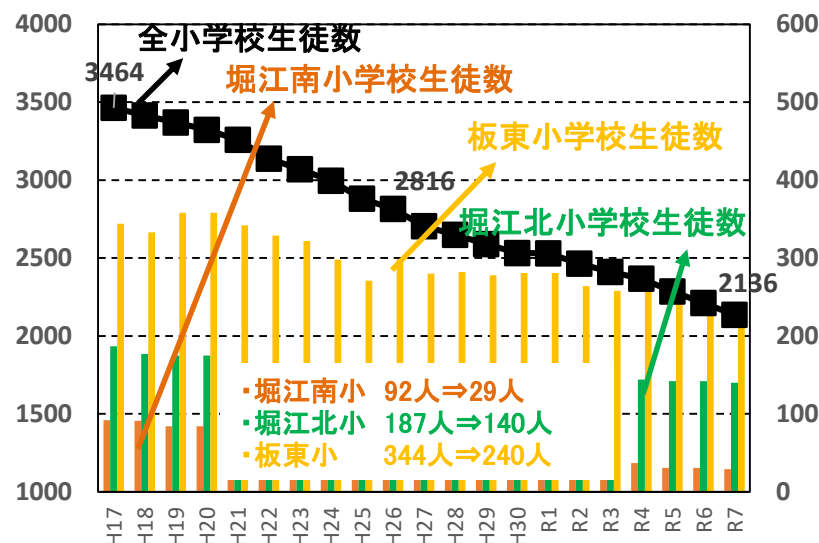
徳島県推計人口より

本市の過去20年間における人口減少率は、約18%となっています。そのうち、板東地区の減少率は約15%、堀江地区の減少率は約25%、そして大麻町地区全体の減少率は約20%と、人口減少は顕著となっております。

3. 大麻町の課題

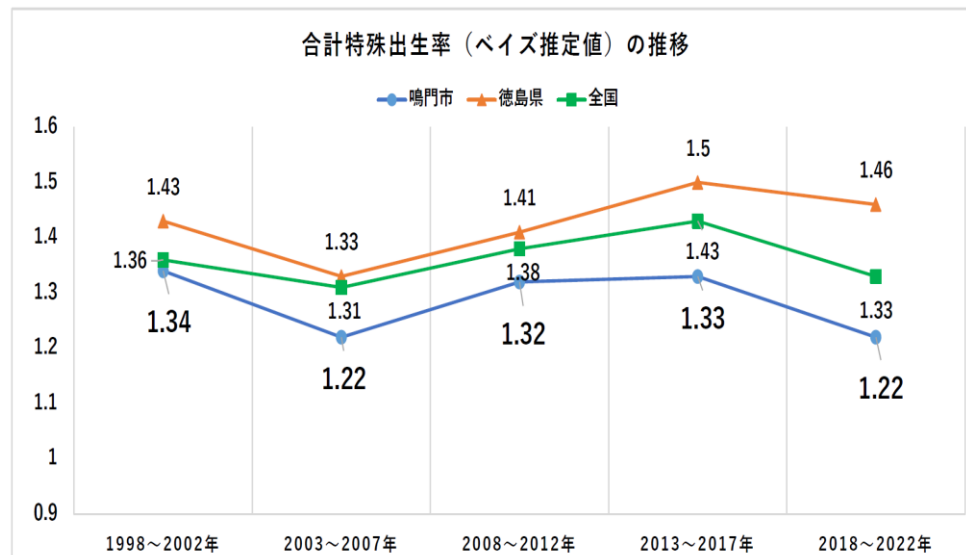
(2) 小学校児童数の推移と合計出生率

本市全小学校と大麻町内の小学校の生徒数の推移



戦略企画課統計年報より

全国・徳島県・本市の合計特殊出生率の推移



(出典)厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」

本市の小学校の生徒数は、過去20年間では、毎年減り続けており、約38%の減少となっております。

大麻町内の校区にある堀江南小学校で約68%の減少、堀江北小学校では約25%の減少、板東小学校では、約30%の減少となっており、大麻町全体では、約34%の減少となっています。

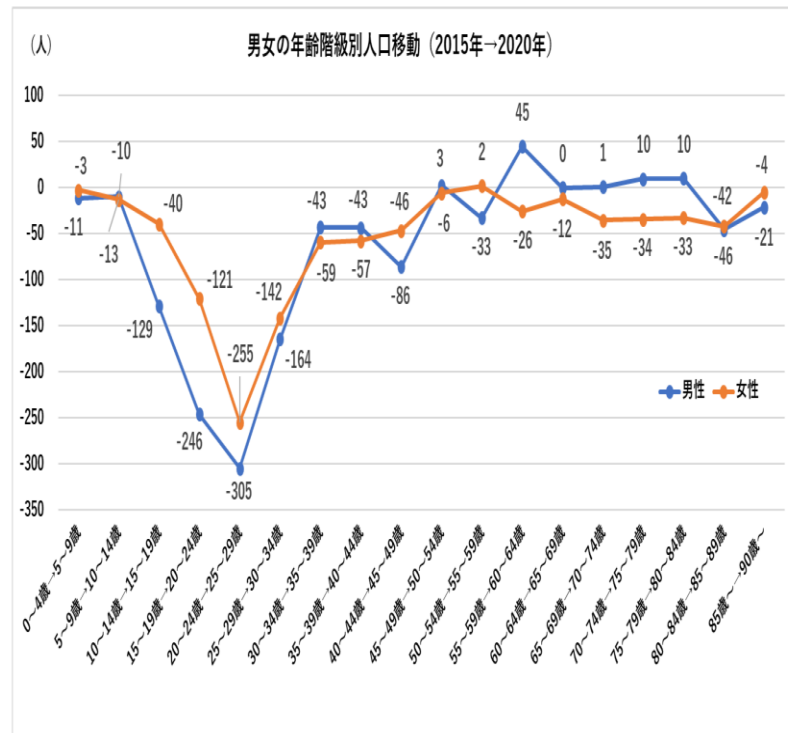
近年の出生数の減少から、今後も更なる生徒数の減少が危惧されます。

3. 大麻町の課題

(3) 人口流出の傾向

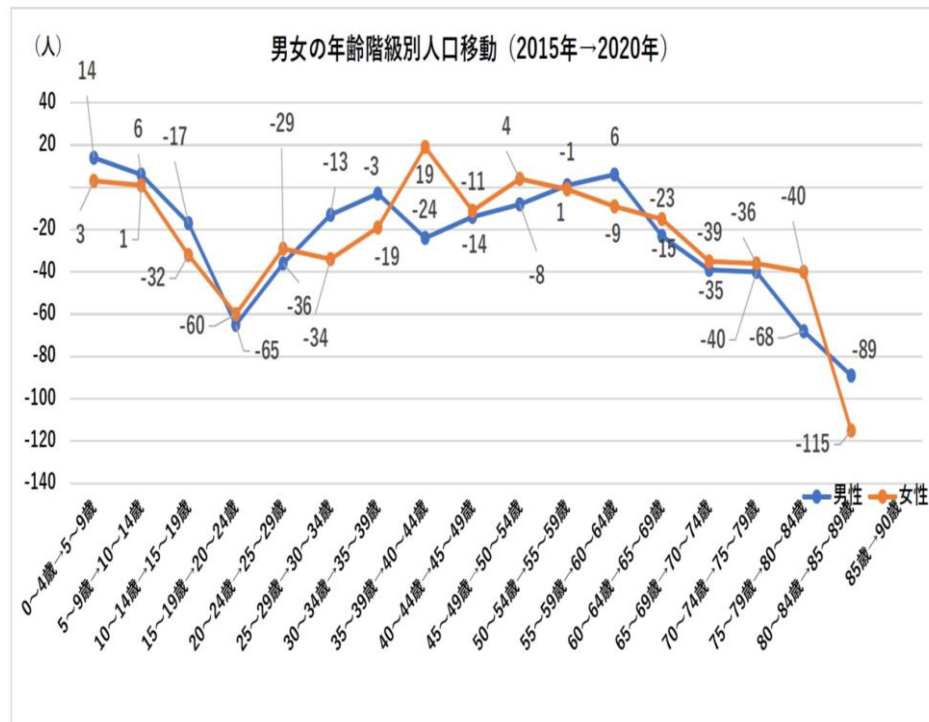
【市全域】

転入
.....
転出



なると未来づくり総合戦略2025より

【大麻町】



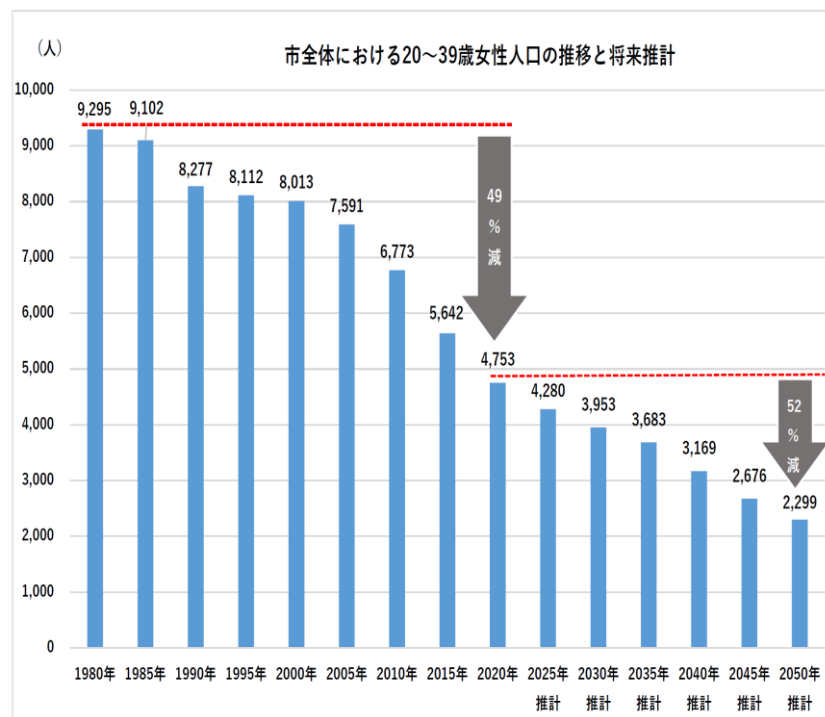
(出典) 国勢調査

市全体の状況ほど、若者世代の転出は突出していないが、全体的に転出傾向にある。

3. 大麻町の課題

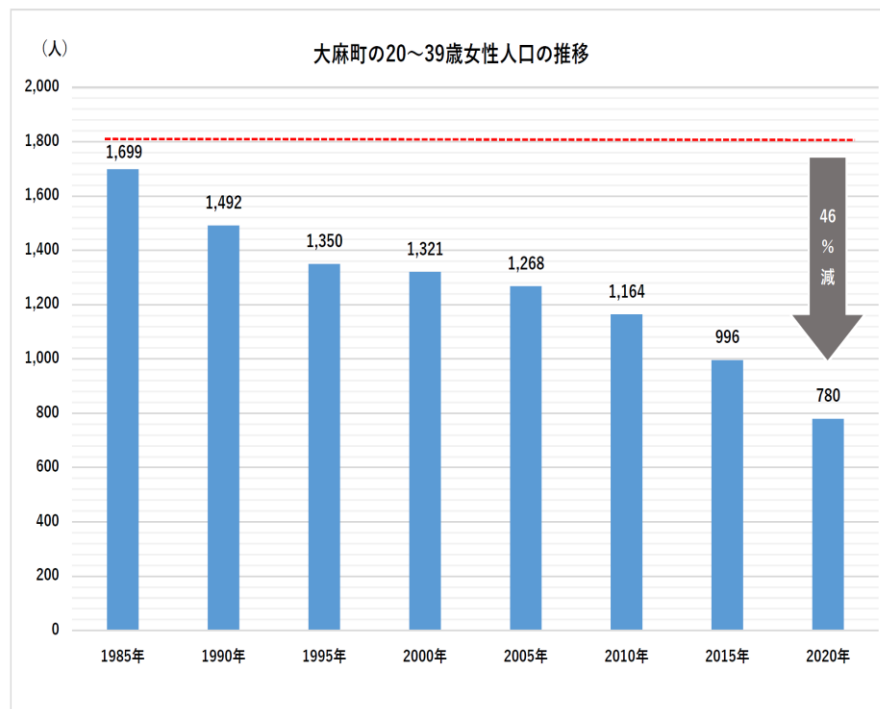
(4) 女性人口の減少率

【市全域】



(出典) 2020年までは国勢調査より。2025年以降は社人研推計を使用。

【大麻町】



消滅可能性自治体を示す、20歳～39歳の女性人口の減少率も50%に近く、高い傾向にある。

※大麻町の1980年の国調データが無く、また、将来推計の人口が市全体でしか公表されていないため、一部比較が難しい部分があります。

3. 大麻町の課題

(5) 商業活力の低下と空き家の増加

事業所数等一覧

(単位: 所, 人)

		総 数		第一次産業		第二次産業		第三次産業	
		事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数	事業所数	従業者数
市全体	平成24年	2,897	23,414	36	242	468	7,079	2,393	16,093
	令和3年	2,565	24,214	33	236	417	6,575	2,115	17,403
	減少率	-11.5%	3.4%	-8.3%	-2.5%	-10.9%	-7.1%	-11.6%	8.1%
大麻町	平成24年	440	3621	12	88	126	1927	302	1606
	令和3年	358	3508	9	54	97	1620	252	1834
	減少率	-18.6%	-3.1%	-25.0%	-38.6%	-23.0%	-15.9%	-16.6%	14.2%

※経済センサスより

事業所数の減少率は、18.6%と市全体の11.5%を大きく上回っており、商業能力の低下が伺えます。

また、空き家も増加傾向にあり、今後、人口減少とともに、さらに空き家や空き地の増加が懸念されます。



空き家率

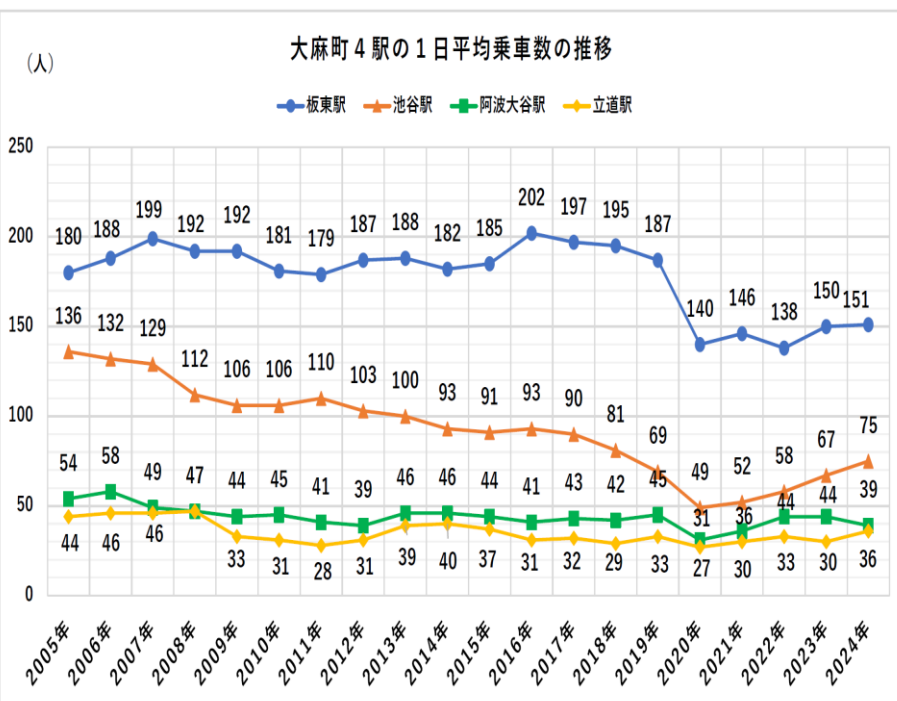
(単位: 数、%)

		総 数		
		建物数	空き家数	空き家率
市全体	平成30年	24,897	1,442	5.8%
	令和3年	25,032	2,761	11.0%
大麻町	平成30年	5145	255	5.0%
	令和3年	5124	414	8.0%

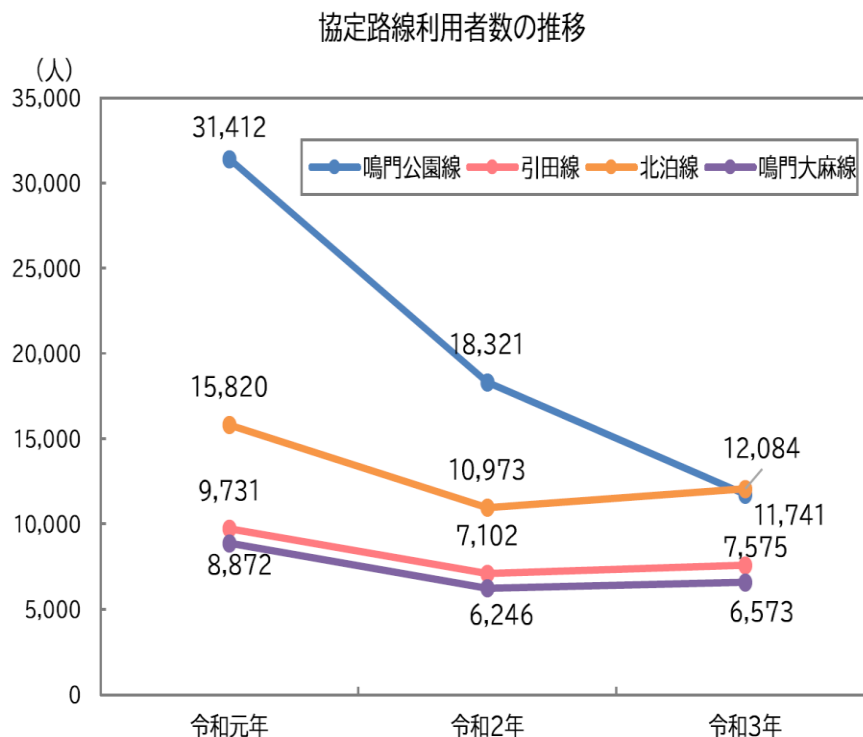
※鳴門市空家等対策計画より

3. 大麻町の課題

(6) 駅利用者等の減少



JR四国提供資料より



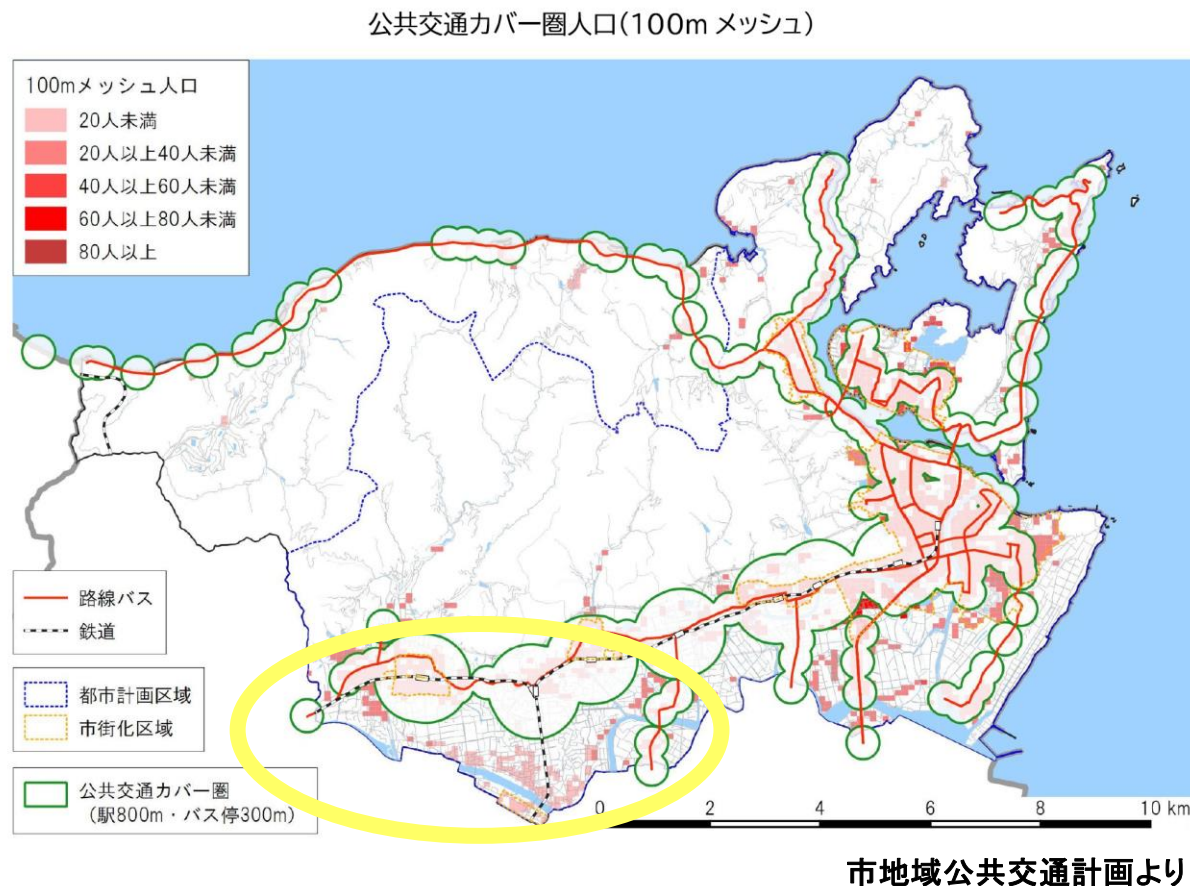
市地域公共交通計画より

コロナ禍を経て、一定の回復傾向にはありますが、長期的には減少傾向にあります。

人口減少下での、公共交通を維持する取組を検討していく必要があります。

3. 大麻町の課題

(7) 大麻地区の交通空白エリア



公共交通の一般的なカバー圏とされる、駅から半径800m以内、バス停から300m以内のエリアは図のように分布しています。

この圏内に住む人口は、鳴門市全体では43,397人で、鳴門市全人口の約80%となります。

一方、大麻町エリアには、路線の廃止等により、町の南部を中心に空白エリアが存在しています。

4. 大麻町の今後の動向

(1) 「(仮称)大麻町総合防災センター」の整備

- 令和9年度末の完成に向けて進捗中。消防分団、大麻分署、連絡所、コミュニティエリアから構成
- コミュニティエリアは、スポーツジム、コワーキングスペース、キッズスペース、コインランドリー、自習室のほか、会議室や屋外デッキなどを整備。
- 平常時はコミュニティの活性化、非常時は災害時の拠点として機能することを目指す。
普段からの良好なコミュニティが、災害時の共助に繋げる。

(仮称) 大麻町総合防災センター位置図



4. 大麻町の今後の動向

(2) 「学区制」の廃止

- 1972年に開始した学区制が、令和11年度廃止
- 学校選択の可能性が広がる。
行きたい学校に行きやすくなる。
- これまで学区制を理由に、高校進学時に居住地の異動を選択する事例もあったが、そうした不均衡が解消される。
- JR鳴門線の利用客の増加や往来が期待でき、併せて、高校生のニーズを満たすコンテンツや駅を拠点としたイベントなどを実施できればまちづくりに繋がる可能性がある。



5. 今後のスケジュール

(1) 大麻町に何が必要なのか？

【各委員さんから事前にいただいたご意見】

●賑わいや活性化

- ・観光客の受入体制の充実
- ・大麻分署の跡地活用
- ・空き家活用(移住受入)
- ・プロモーション(災害が少ないことや歴史・文化をPR)
- ・新たな商店街の検討
- ・公園施設の充実

●交通や移動手段

- ・待ち時間を過ごす場
- ・交通の利便性向上
- ・新たな移動手段の導入

●生活

- ・働く場所の充実
- ・コンビニやスーパーの誘致
- ・市街化調整区域の用途変更

住民の課題やニーズの把握

アンケートの実施

5. 今後のスケジュール

(2) 住民の課題やニーズの把握

① アンケート(案)

【対象者】

- ・いきいきサロン利用者(高齢者世代)
- ・大麻町にある幼・小・中などの保護者(子育て・現役世代)
- ・大麻町在住の市職員(子育て・現役世代)
- ・大麻町在住で近隣の高校に通う学生(Z世代)
- ・大麻中学校に通う学生(α 世代) など 約1,500人対象

【内容】

別紙参照

5. 今後のスケジュール

(3) ロードマップ

		令和7年度					令和8年度					令和9年度以降				
		4	7	10	1	3	4	7	10	1	3	4	7	10	1	3
意見集約	会議開催		●	●		●		●	●							
	地域との意見交換		アンケート				グラントデザイン案 地域説明会									
実施段階	短期的取組 (概ね5年以内の実施)											予算要求				
	中期的取組 (概ね10年以内の実施を目指す)															
	長期的取組 (概ね20年以内の実施を目指す)															

【会議の進行イメージ】

- 1回目…現状や課題、会議進行イメージの共有と意見交換
- 2回目…アンケートを踏まえた地域の意見の共有と意見交換
- 3回目…グラントデザイン(骨子)の提示と意見交換
- 4回目…地域説明会の意見をふまえたグラントデザイン(案)に関する意見交換
- 5回目…グラントデザイン(最終案)について

※会議の進行状況等に応じて、今後、変更になる場合があります。

6. 意見交換

【テーマ】

(1) 会議の進め方について

事務局案の進め方についてご意見いただきたい。

(もっと良い進め方がある、もっとこうした方が良い、など)

(2) 地域課題について

事務局と異なる認識や考え方があれば共有いただきたい。

(一番の課題は？など、地域のお考えを率直にお聞きしたい。)

(3) 各自が描く将来ビジョンと提案について

将来、どのような「大麻町」になってほしいか？

それらを実現させるためにはどのようなアクションが必要か？